

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成23年1月6日(2011.1.6)

【公表番号】特表2003-515366(P2003-515366A)
 【公表日】平成15年5月7日(2003.5.7)
 【出願番号】特願2001-540572(P2001-540572)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 6/00 (2006.01)

H 0 5 G 1/38 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 6/00 3 2 0 Z

H 0 5 G 1/38

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年11月2日(2010.11.2)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 5】

テストフィールドを横切るX線の平均強度を、X線露光の最中に、例えば0.1msの規則的な時間間隔にて測定する。マルチプレクサ22は常に読出し増幅器6の出力端子における電圧を取り上げて、制御信号(cS)を再び発生する。X線診断のこのフェーズの期間中に、制御信号(cS)の信号レベルは最初増大し、この増加は、X線源の再調整中におけるX線強度の増加に相当する。さらに、テストフィールド及び補正係数から得た制御信号の信号レベルに基づいて、現行の線量率 r_{DX} を規則的な間隔で計算し、また、現行線量率の積分により、現行X線の線量DXを計算する。現行X線線量の値は、露光制御系における電気線量電圧によって表される。露光制御系は、現在のX線線量とプレセットしたX線線量とを比較するようにも構成する。この比較は、特に、電気線量電圧が、例えば1Vの制限値に達する瞬時を求めることによって行なう。これに応答して、X線制御信号(cX)がX線源を不作動状態にし、X線の露光は、X線線量が所望値に達する際に正確に終了させる。X線源用に通常用いられている高電圧電源は、1VのX線制御信号に基づいてこれらの高電圧源が不作動となるように調整される。従って、本発明を実施するのに、高電圧源の制御を追加的に変更する必要はない。